

第1回 原子力試験研究検討会議事録

1. 日 時：平成13年4月19日（木）10:00～11:30

2. 場 所：文部科学省別館5階特別会議室

3. 出席者

原子力委員会：藤家洋一委員長

検討会：岩田修一（東大）、阿部勝憲（東北大）、井上弘一（埼玉大）、小柳義夫（東大）、

北村正晴（東北大）、澤田義博（名大）、嶋 昭紘（東大）、三宅千枝（大工大）、

村田 紀（(財)放射線影響協会）

内閣府：青山 伸参事官(原子力担当)

文科省：工藤敏夫量子放射線研究課長、木村直人課長補佐、打越哲郎専門官、成嶋清

4. 議 題

- (1) 原子力試験研究検討会の設置目的について
- (2) 原子力試験研究費について
- (3) 評価課題の対象について
- (4) 評価の手法・基準について
- (5) 平成14年度原子力試験研究に関する基本方針及び募集課題(案)について
- (6) 原子力試験研究評価ワーキンググループの設置について
- (7) 今後のスケジュールについて
- (8) その他

5. 議事内容

(1) 開会挨拶および配布資料確認

青山内閣府参事官による開会の辞の後、藤家原子力委員会委員長より挨拶が行われた。委員長挨拶の要旨は以下の通り。

新しい長期計画を踏まえ、本検討会における研究評価にあたり以下の視点が重要であり、その役割に期待するところは大きい。

- 新長計においては、数値目標設定、タイムスケジュール優先から理念的、課題解決的方向への原子力政策の転換があり、数値目標に代わる指標としての適切な「評価」の導入が重要とされていること。

- 新規研究の開拓、推進においてはリーダーシップが必要であること。
- 新規研究に夢を与え発展させていく考え方として、to nuclear（新しい研究開発が何を目指しどうやっていくかに関連する分野－電気、機械、化学－の発展、心理学の導入など）、in nuclear（核反応を中心とする分野の発展）、from nuclear（原子力から何が育っていくのか）の視点が重要であること。
- negative check でなく positive check の研究評価を行うべきであること。

次に、検討会構成員による自己紹介、青山参事官および工藤文科省量子放射線研究課長による自己紹介が行われた。引き続き、青山参事官より配布資料の確認が行われた。

（２）原子力試験研究検討会の設置目的について

事務局より、資料第 1-1 号に基づき、原子力試験研究検討会の設置目的、検討会における検討事項、および検討会の進め方について説明が行われた。また、資料第 1-2 号に基づき、評価の目的と意義、評価実施主体(原子力委員会、原子力試験研究検討会)と研究者及び評価者の責務、評価の在り方、研究開発課題の評価についての要約説明が行われた。

次に、検討会構成員の出席者から座長の選出が行われ、推薦により岩田委員が座長に選出された。引き続き、岩田座長より挨拶が行われた。

（３）原子力試験研究費について

事務局より、資料第 1-4 号に基づき、原子力試験研究費の概要と研究分野、原子力試験研究費の経緯、研究費の配分方針、平成 13 年度原子力試験研究予算の府省別内訳、各府省試験研究機関について説明が行われた。

（４）評価課題の対象について

事務局より評価対象課題の説明が行われた。また、参考として、資料第 1-5 号に基づき、平成 13 年度中間評価対象課題の紹介が行われた。質疑内容は以下の通り。

- 防災安全基盤技術分野はいつから設定されたか。
(事務局) 当該課題の評価はバックエンド対策専門部会で実施することになっていった。しかし、平成 13 年度新規課題提案に伴い適切なWGの設置の必要が生じたため、昨年度の事前評価より新たに追加された。
- 資料第 1-5 号における分類で「生命・医療基盤技術」の記述と資料第 1-4 号の分野における「生体・環境影響基盤技術」の記述はどちらが正しいか。
(事務局) 資料第 1-5 号の「生命・医療基盤技術」は「生体・環境影響基盤技術」の誤り。

岩田座長より、評価課題については研究分野が多岐にわたるため、分野ごとのWGの設置と専門分野の先生方による適切な評価の必要性が指摘された。

(5) 評価の手法・基準について

事務局より、資料第 1-6 号に基づき、研究評価の実施要領（基本方針、実施方法、時期、判断材料、評価者の選任、評価手続き、結果の公開、結果の活用、留意事項）及び評価システムについての説明が行われた。また、資料第 1-7 号に添付の研究評価における統一様式（研究評価共通調査票、共通チェックシート、総合所見共通フォーマット）について概略説明が行われた。さらに、資料第 1-8 号に基づき、平成 12 年度に行われた事前・中間評価結果と評価基準が説明された。質疑内容は以下の通り。

- 研究遂行の難易度や影響の大小を評価する項目をチェックシートに盛り込んだ方がよいのではないか。

（事務局）検討する。

岩田座長より、評価シートについては年々良くなってきてはいるが今後も適宜見直していきたい、具体的な事項は次回の検討会までに検討して頂きたいとの発言があった。

(6) 平成 14 年度原子力試験研究に関する基本方針および募集課題(案)について

事務局より、資料第 1-9 号に基づき、募集基本方針および募集課題の説明が行われた。また、原子力試験研究の新しい分類案が説明された。意見及び質疑内容は以下の通り。

- 共通調査票に「所属機関のミッションとの合致性」という欄があったら良いのではないか。

（事務局）評価項目に付け加えるか、何らかの形でそれが読み込めるようにする。

- すでに提案の段階で、ミッションに合致する課題のみの応募なのか。

（事務局）昨年度は、必ずしもそうでない課題の提案もあった。

- あまり議論して新しい発展性を潰してしまうのもどうか。バランスが必要だと思う。
- 応募課題が原子力研究として適切かどうかはいつも議論になる。社会のニーズにあわせて変わってくるもの。文書に書ききれないことについては、WGで適宜ご判断頂きたい。
- すでに携わっている者は応募できないというのは主担当者だけか、全担当者か。
（事務局）主担当者だけ。
- 熱意ある研究は encourage すべき。発想の段階であまり絞る必要はないのではないか。あまり強く縛らないで欲しい。
- 優れた研究者であればアイデア勝負というところもある。但し書きをつけるか、説明が付くならこの限りでないとするなど条件付けを緩和する方が活性化に役立つのではないか。
- この研究費は研究者のベースになるようなものというのとは違うのではないか。
- 「原子力研究から」というのは、原子力に特化したものでなく、その研究が本当に

いい研究であるのなら、自由度を与えた方が、いい人が集まる。その点を公募時に十分説明頂きたいし、基本方針の前に基盤研究の趣旨を入れた方がいい。その方が応募する側も応募しやすい。いいものを汲み上げるという方針で案をつくってもらいたい。

- せめて、「主担当者は（応募できない）」というふうにならないか。
- ある提案をしたら責任を持って実行していく、時間的にもその可能性を持った人が出すべきで、「主担当者はさける」というふうにして欲しい。基本方針の修文は時間的に間に合うか。

（事務局）WGのスタートを考慮すると5月中旬には募集を締め切る必要があり厳しい。できれば座長と相談させて頂きたい。

岩田座長より、この件については実施方法も含め座長に一任して欲しいとの提案があり、了承された。

- 既存の原子力利用技術やRIの単なる利用・応用とあるのは、RIや放射線の・・・ではないか。

（事務局）ご指摘の通り修正する。

岩田座長より、募集については、基本方針について原子力委員会の了解を経て公募開始という形になるとの説明がなされた。

（7）原子力試験研究評価ワーキンググループの設置について

事務局より、資料第1-10号に基づき、研究評価WGの設置趣旨、構成（物質・材料基盤技術、知的基盤技術、防災・安全基盤技術、生体・環境影響基盤技術、クロスオーバー研究推進の5WG）、構成員および運営についての説明が行われた。また、分野間の評価の差を減らす目的でWGを4つに減らした経緯が説明された。質疑内容は以下の通り。

- クロスオーバー研究推進WGとは何か。クロスオーバー研究全てを扱うのか。
（事務局）従来のクロスオーバー研究推進会議の廃止に伴い、クロスオーバー研究推進WGとして新たに立ち上げた。クロスオーバー研究の進捗状況を聞き適切なアドバイスを与えて、クロスオーバー研究の推進を目的とするもの。クロスオーバー研究も評価を行う際には4つのWGのどれかにあてはまる。
- WGの運営で、「研究課題の新規性を配慮する」とした点をもう少し説明して欲しい。
（事務局）議事運営を公開にするか非公開にするかということに関連している。不採択になった課題のアイデアの保護する観点から新規性に配慮して慎重に進めるべきではないかということ。

岩田座長より、原子力試験研究の的確な評価実施のためWGを設置することとしたい、また、研究課題の新規性に配慮する観点から、WGは非公開で運営することとしたいとの話があり、了承された。

引き続き、座長より、次の各委員がWG主査に指名された。

物質・材料基盤技術WG：阿部委員

知的基盤技術WG：小柳委員

防災・安全基盤技術WG：澤田委員

生体・環境影響基盤技術WG：嶋委員

クロスオーバー研究推進WG：北村委員

また、各主査に、次回検討会までに各WGメンバーを推薦して欲しいとの依頼がなされた。

(8) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料第 1-11 号に基づき、今後のスケジュールの説明が行われた。

また、次回検討会の日程が 5 月 15 日(火)13:00～に決定された。

(9) その他

公募に関して、以下の追加意見および質疑が行われた。

- 各機関のミッションで行っている本来の研究があるはず。それに関し、これに応募するのが的確かどうかは応募者あるいは研究機関が判断するという事か。
(事務局) そうです。
- 以前のWGでも、同じテーマながら違うところから研究費を受ける研究者が問題になった。能力がある人が複数テーマを持つのは良いが、全く同じテーマで出てくるのは困る。他で応募しているか、評価の時にわからないか。
- 原子力安全委員会でもテーマの重複をチェックしている。但し、向こうも評価している。ダブルチェックになりかねないのではないか。
(事務局) 重複応募はできるだけ事務局でチェックする。安全に関する研究については、研究の性格からこちらに応募してくるものもある。
- 申請者に他の応募があるか自分で書かせる欄を書類に設けてはどうか。
(事務局) 検討する。

以上